

「第4回 家族で道徳」《保護者意見》

令和2年5月20日(水)

資料：「祖母のメール」

出典：日本道徳学会近畿支部資料

この話を読んで、おばあちゃんの優しさ、僕がしたことへの後悔の気持ちがよくわかり涙が出ました。娘も同じように涙した事を聞き、人の痛みがわかる気持ちを持っているんだと、うれしく思いました。これからも、自分の事だけを考えず、人に対して優しく接する人であってほしいです。

話を読みながら所々で、どんな事を思うか息子に尋ねると、私たちでは考えられないような答えが返ってきます。面白いなど、成長したと思います(笑)

生まれたときから祖父母と一緒に暮らしている事もあり、この話に出てくるおばあちゃんが、自分のおばあちゃんと重なって、感情移入しやすい内容でした。対話することの大切さと、自分がいろんな人に愛され育っていることを感じてもらいたいです。

どうして折れた右手じゃなくて左手だったの?と息子に聞いてみました。自分の行動を振り返る良い機会になりました。休校中一人で留守番をしている孫を心配して電話をしてくれる祖母をうっとおしがることもあるのですが、そんな自分を振り返るような記述を見て、少し安心しました。

誰もが似たような経験があると思う。という話をしました。私もあったので、その当時の話をしました。楽しいことや面倒なことがたくさんあるけれど、底辺には必ず戻ることが大事だと気づいて欲しいと思い話をしました。

私は両親と同居しているため、親の健康状態や変化を常に把握することが出来ていますが、妻は母親が一人暮らしをしているため、毎日「安否確認!」と言いながら電話をしています。子ども達は、そういった状況を目の当たりにして、家族の大切さ有り難さ等を学び取って、人を労うことが出来る優しい人に育って欲しいです。

人のズルさや”見えなければ、わからなければいいじゃないか”という心、精神的に成長していく子供に対して、大人もまた成長して、子供に伝え教え一緒に学ぶ、どのように伝わったか、しっかり見る目を持たなければならないと感じました。ズルさや逃げる心があっても、気付けば心に残る。周りはわからなくても、自分は自分の事を知っている…。そして、反省も成長できる。娘には、忘れずにいてほしい事だと思います。

※ご協力等、ありがとうございました。

学校長(植田)